

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス向陽台	ユニット名	ふじ
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和 1年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 1 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

余暇の時間を利用し、利用者様と共に季節感のある行事ごとで楽しみ、また、貼り絵を制作し飾ってみんなで会話しながら楽しんでおります。食事は利用者様に合わせた形態での提供を行っております。おやつは、手作りケーキなどを提供したり、お茶をたてて提供したりと楽しみながらの提供を行っております。活動面では、近くの公園に散歩へでかけたり、外出ドライブにて花見をし、喫茶店でのおやつを頂き笑顔が見られております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは、向陽台の小高い所にあり、周辺は閑静な住宅街となっている。東側には向陽台小学校があり、デイサービスセンターが併設されている。入居者は散歩時に小学生と擦れ違う機会も多く、職員は出・退勤時に地域の方と挨拶を交わすなど地域に溶け込む努力している。法人の運営理念は「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上」「介護サービスの質の向上」を掲げ、職員は朝礼の際に唱和することで理念の周知と意識向上に努めている。日常のケアにおいては、入居者との関りで気が付いたことを「きょうの私」と銘打ったノートに記載し、職員間で共有している。蓄積した情報は、入居者の症状の変化の把握や配慮を要する支援に活かしている。前年度に課題となっていた避難訓練は、夜間想定を含め年2回実施したが地域住民の協力については、継続して取り組んで頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 GHコスモス向陽台) 「ユニット名 ふじ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民として進んで参加しますと掲げており、唱和して共有し実践に繋がるよう努力しています。	毎年4月に職員間で話し合い、言葉を柔らかくしたユニットごとの理念がある。理念のキーワードは、入居者が笑顔で健康に過ごせるように、チームワークを大切に実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるよう、散歩や外出にて出合った地域の方々に挨拶をし会話することを続けていきながら、良い関係性が持てるよう心がけています。	町内会に加入することで地域の協力を得ながら、ホームの夏祭りや近所のお茶会等に行っている。近隣のグループホームが開催しているカフェにホームの入居者2~3人が参加し、地域住民と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接のデイサービス、小学校、公園がある事により、地域の方々との交流会や施設行事への参加しており、事業所の特色や取り組み事を伝えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や地域・事業所合同避難訓練を実施にて通じ、運営状況や取り組みを報告し、意見を伺い、そこでの内容を取り入れてサービスの質の向上につなげています。	参加メンバーの都合や日程等で調整ができず、今年は2回の開催であった。	地域密着型サービスの質の確保と向上を図るために、県のガイドラインが求めている年6回以上の開催に向けて取組むよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者、包括支援センターと連絡を密に取り、相談や不明な点があった際にその都度連絡確認し意見を頂き、指導を受けております。	介護報酬及び看護調整手当の相談している。地域包括支援センターと待機利用者の相談を行っている。市主催の介護講座には積極的に参加し、研修の内容はユニットごとに職員に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しないケアを実施しており、防止委員会が中心となり勉強会をおこなっています。	家族からの要望等があり、ベッドからの転落防止に赤外線センサーを利用している。実践に基づいて3か月ごとに職員アンケートを取り、その中からテーマを決めている。「テーブルに車いすをくっつけるのはどうか」など、身体拘束に繋がらない取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学び、日ごろから虐待を起さぬように努めています。小さな声かけから一つ一つ確認していき、職員同士でも間違った声かけが行われていないかを確認し合っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護についての研修を行い学んでいます。制度を活用されている利用者が居ないため、今後の必要に応じて支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に内容をご説明し、ご理解ご納得頂いたうえで記名押印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、運営推進会議やご面会時にご家族様から意見要望を伺い、運営に反映できるよう努めています。	家族から「食事に関し気にかけていること」「食事の内容を見せて欲しい」等の要望に応え、面会時に丁寧に説明をしている。家族から、外出や外泊の要望を言いやすい環境づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、スタッフから面談や会議において意見・提案等を吸い上げ、運営に反映できるよう努めています。	ユニットごとに月2回のカンファレンスと昼にミニカンファレンスを行っている。夜間帯の排泄対応や体位変換マットの必要性などに対し話し合っている。職員は、「やって見よう」精神で積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者ならびに管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価を行い、また各スタッフとも向上心を持てるよう目標設定をし実行をしてもらいながら、良い環境で働いていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修ならびに本社研修などの機会を設けて、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間連絡会、デイサービス・居宅・GHとネットワークづくりを図り、サービスの質の向上に取り組み初段階です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何が必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様の安心に結びついて対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様主体のケア、生活のペースや体力・ADLに合わせたケアや支援が出来るよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様が、継続して繋がりが持てるよう連携を取り共に考え、また、他業種の方々や地域も連携を図りながら支援していけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂き、ご本人様の居室や手の届くところに置いておき、居心地のよい場所となるように努めています。また、散歩等外出時にはなじみのある場所に行き、思い出していけるような支援を行っています。	馴染みの七北田公園などにドライブに出かけている。洋服を買いながら喫茶店に寄ってケーキやコーヒーで気分を癒している。ハンドマッサージを施してくれる理容師と馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり、一緒にレクリエーションを行って楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っています。施設を変われた場合は、その行先の施設担当者に情報を提供し支え合えるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事ややりたい事、昔から行ってきたことを把握し、可能な限り実現できるようにケアや支援に取り入れて一緒に行っています。	昔から好きだった編み物や歌うことを家族から聞き取り支援している。「日常生活および日頃の活動」を通じ達成出来たときに「シール」を張り、入居者の喜びと励みに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や環境を把握しケアに活かして支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、出来る事・出来ない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状を把握したうえで、今後の課題とケアの方向性を毎月一回のカンファや毎日のミニカンファを通じて聞き取りし、またご家族様と話し合いをし、その結果を介護計画に活かしていけるよう努めています。	入居者の体調の変化が無ければ、3~6カ月で介護計画の見直しを行っている。退院後の入居者は、日常動作が落ち対応が変わる。排泄コントロール等、看護師の助言を入れた支援を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し、経過や結果から方向性や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にマッサージや外食、買い物など他のサービスの協力を頂きながら支えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源をご家族様ならびにご親族やご友人の方々に伺い把握し、関係性が途絶えることのないようにしながら、楽しんでの生活が出来るような支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の主治医が往診に来られ、報告相談しながら適切な医療をうけられるよう支援しています。	毎週主治医の往診があり、薬は調剤薬局が持ってくる。整形外科、眼科への通院は基本的に家族対応となっているが、家族からの依頼で職員対応が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師や訪問看護師との連携を密にし報告相談していき、受診や看護を受けられるよう支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて連携をとりあい、つど情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い、方針を共有しています。	入居時に看取りに関して聞かれることが多く、指針等に基づき説明し同意を得ている。終末期になった場合は主治医を中心とした家族協力のもと、緩和ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、災害時に対応できるよう備えており、地域のご協力が頂ける様築いています。	夜間想定訓練では手順を話し合い2階の入居者は左右両側の非常階段から避難した。1階と2階の役割に反省点もあり、階ごとの留意点を見直した。隣のデイサービスと合同で同時進行での訓練も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重できるようプライバシーが守れるよう努めています。	入居者の希望により名字で呼ぶことが多い。声掛けは入居者の傍に行き、その人に合わせた声の大きさを優しく親しみやすい言葉で話しかけている。生まれた場所の話や何気ないときに話が弾むことがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思表示や自己決定ができるように、例えば水分提供の際は、好きな飲み物を選んで頂くよう声がけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人様の思いやしたい事に配慮しながら、また、ペースに合わせた生活が送れるよう配慮し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらい着ていただいたり、髪型などの身だしなみに配慮して支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事づくりなど行ってもらう事が困難になってきておりますが、食器やおぼん拭き、テーブル拭きを手伝って頂ける様声がけ支援行っております。	配食業者を利用している。正月料理、新年会、誕生会などその時々にあった食事を楽しみ、季節に合った果物も直接仕入れている。手作りおやつにホットケーキ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できるよう配慮し、本人の体調や嚥下状態も把握しながら食事形態を考え提供し支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めています、必要時には訪問歯科に相談し治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のおむつ使用を出来るだけ行わず、定時的にトイレへの誘導声がけを行い排泄を促すよう努めています。	排泄チェック表で個人ごとにタイミングと僅かな動きで声がけし、トイレ誘導を行っている。失禁、失敗時には「綺麗にしましょう」と声がけし、入浴に誘うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的にとらえ、自然排泄が出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調や気分に合わせて柔軟に変更したり、ご本人様が入浴を希望する時間に合わせられるように行っています。	入浴は週2回～3回で本人の体調に合わせて行っている。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤等で入浴を楽しみながら風呂場で話しが弾む。浴槽に入れられない方も部屋を暖め、体をタオルで包むなどシャワー浴で寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、かつ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づいた管理を行っています。服薬事故のないようスタッフ間でダブルチェックを実施しています。また、看護師にも内服時間や方法など相談しながら、かつ医師にも相談を行いながら適切な服薬ができるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い継続して行っていくことで、メリハリのある生活が出来るよう支援しています。出来る事に配慮した支援をし、手伝い等役割と感覚、活気のある日常を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ドライブや隣接のデイサービスでの行事に参加して支援行っています。また、ご家族様と共に協力に外出を楽しんで頂けるよう支援しています。	冬場は室内にいることが多い。温かい季節には、長椅子で外気浴をしている。花壇に水をかけたりお茶を飲んだりしている。近くに公園があり日常的な散歩コースになっていて近所の方や子供たちと触れ合う機会が多くある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物をしたり、外食での支払いを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感を感じる事の出来る飾りつけを行っており、居心地のよく感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	入居者の座る位置などに気を配っている。入居間もない人には家族からの聞き取りにより、フロアでの本人の座る向きを決めている。ソファーやテレビの位置を変えるなどして新鮮味を出す工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手になったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人様の意思にて席が変わられる事も柔軟な対応配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真等持参して頂きご本人様の居室に置き、居心地のよく安心して生活が送れるように配慮行っています。	各部屋はエアコン、加湿器がセットされていて居心地がよく安心して過ごせる工夫がされている。居室の掃除は主に職員がすることが多いが入居者が寝やすい状況を考慮しベッドの位置変更で気分転換を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や明るさへの配慮を行い、安全に配慮した環境作りが出来るよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス向陽台	ユニット名	さくら
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	令和 1年 12 月 13 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 1 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

余暇の時間を利用し、利用者様と共に季節感のある行事ごとで楽しみ、また、貼り絵を制作し飾ってみんなで会話しながら楽しんでおります。また、利用者様一人ひとりのADLに合わせた食器拭きや掃除などの役割を提供し支援し、生きがいを持った生活が送れるよう支援しております。食事は利用者様に合わせた形態での提供を行っております。おやつは、手作りケーキなどを提供したり、お茶をたてて提供したりと楽しみながらの提供を行っております。活動面では、近くの公園に散歩へでかけたり、外出ドライブにて花見をして楽しませております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは、向陽台の小高い所にあり、周辺は閑静な住宅街となっている。東側には向陽台小学校があり、デイサービスセンターが併設されている。入居者は散歩時に小学生と擦れ違う機会も多く、職員は出・退勤時に地域の方と挨拶を交わすなど地域に溶け込む努力している。法人の運営理念は「利用者様主体のケア」「地域福祉の向上」「介護サービスの質の向上」を掲げ、職員は朝礼の際に唱和することで理念の周知と意識向上に努めている。日常のケアにおいては、入居者との関りで気が付いたことを「きょうの私」と銘打ったノートに記載し、職員間で共有している。蓄積した情報は、入居者の症状の変化の把握や配慮を要する支援に活かしている。前年度に課題となっていた避難訓練は、夜間想定を含め年2回実施したが地域住民の協力については、継続して取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 GHコスモス向陽台) 「ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民として進んで参加しますと掲げており、唱和して共有し実践に繋がるよう努力しています。	毎年4月に職員間で話し合い、言葉を柔らかくしたユニットごとの理念がある。理念のキーワードは、入居者が笑顔で健康に過ごせるように、チームワークを大切に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるよう、散歩や外出にて出合った地域の方々に挨拶をし会話することを続けていきながら、良い関係性が持てるよう心がけています。	町内会に加入することで地域の協力を得ながら、ホームの夏祭りや近所のお茶会等に行っている。近隣のグループホームが開催しているカフェにホームの入居者2~3人が参加し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接のデイサービス、小学校、公園がある事により、地域の方々との交流会や施設行事への参加しており、事業所の特色や取り組み事を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や地域・事業所合同避難訓練を実施にて通じ、運営状況や取り組みを報告し、意見を伺い、そこでの内容を取り入れてサービスの質の向上につなげています。	参加メンバーの都合や日程等で調整ができず、今年は2回の開催であった。	地域密着型サービスの質の確保と向上を図るために、県のガイドラインが求めている年6回以上の開催に向けて取組むよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者、包括支援センターと連絡を密に取り、相談や不明な点があった際にその都度連絡確認し意見を頂き、指導を受けております。	介護報酬及び看護調整手当の相談している。地域包括支援センターと待機利用者の相談を行っている。市主催の介護講座には積極的に参加し、研修の内容はユニットごとに職員に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しないケアを実施しており、防止委員会が中心となり勉強会をおこなっています。	家族からの要望等があり、ベッドからの転落防止に赤外線センサーを利用している。実践に基づいて3か月ごとに職員アンケートを取り、その中からテーマを決めている。「テーブルに車いすをくっつけるのはどうか」など、身体拘束に繋がらない取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待について学び、日ごろから虐待を起さぬように努めています。小さな声かけから一つ一つ確認していき、職員同士でも間違った声かけが行われていないかを確認し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護についての研修を行い学んでいます。制度を活用されている利用者が居ないため、今後の必要に応じて支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に内容をご説明し、ご理解ご納得頂いたうえで記名押印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、運営推進会議やご面会時にご家族様から意見要望を伺い、運営に反映できるよう努めています。	家族から「食事に関し気にかけていること」「食事の内容を見せて欲しい」等の要望に応え、面会時に丁寧に説明をしている。家族から、外出や外泊の要望を言いやすい環境づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者並びに管理者が一体となって運営作りが行えるよう、スタッフから面談や会議において意見・提案等を吸い上げ、運営に反映できるよう努めています。	ユニットごとに月2回のカンファレンスと昼にミニカンファレンスを行っている。夜間帯の排泄対応や体位変換マットの必要性などに対し話し合っている。職員は、「やって見よう」精神で積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者ならびに管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価を行い、また各スタッフとも向上心を持てるよう目標設定をし実行をしてもらいながら、良い環境で働いていけるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修ならびに本社研修などの機会を設けて、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間連絡会、デイサービス・居宅・GHとネットワークづくりを図り、サービスの質の向上に取り組み初段階です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何が必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様の安心に結びついて対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様主体のケア、生活のペースや体力・ADLに合わせたケアや支援が出来るよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様が、継続して繋がりが持てるよう連携を取り共に考え、また、他業種の方々や地域も連携を図りながら支援していけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂き、ご本人様の居室や手の届くところに置いておき、居心地のよい場所となるように努めています。また、散歩等外出時にはなじみのある場所に行き、思い出していけるような支援を行っています。	馴染みの七北田公園などにドライブに出かけている。洋服を買いながら喫茶店に寄ってケーキやコーヒーで気分を癒している。ハンドマッサージを施してくれる理容師と馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり、一緒にレクリエーションを行って楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っています。施設を変われた場合は、その行先の施設担当者に情報を提供し支え合えるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事ややりたい事、昔から行ってきたことを把握し、可能な限り実現できるようにケアや支援に取り入れて一緒に行っています。	昔から好きだった編み物や歌うことを家族から聞き取り支援している。「日常生活および日頃の活動」を通じ達成出来たときに「シール」を張り、入居者の喜びと励みに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や環境を把握しケアに活かして支援できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、出来る事・出来ない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の現状を把握したうえで、今後の課題とケアの方向性を毎月一回のカンファや毎日のミニカンファを通じて伺い、またご家族様と話し合いをし、その結果を介護計画に活かしていけるよう努めています。	入居者の体調の変化が無ければ、3~6カ月で介護計画の見直しを行っている。退院後の入居者は、日常動作が落ち対応が変わる。排泄コントロール等、看護師の助言を入れた支援を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し、経過や結果から介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にマッサージや外食、買い物など他のサービスの協力を頂きながら、支えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の地域資源をご家族様ならびにご親族やご友人の方々に伺い把握し、関係性が途絶えることのないようにしながら、楽しんでの生活が出来るような支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の主治医が往診に来られ、報告相談しながら適切な医療をうけられるよう支援しています。	毎週主治医の往診があり、薬は調剤薬局が持ってくる。整形外科、眼科への通院は基本的に家族対応となっているが、家族からの依頼で職員対応が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師や訪問看護師との連携を密にし報告相談していき、受診や看護を受けられるよう支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて連携をとりあい、つど情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い、方針を共有しています。	入居時に看取りに関して聞かれることが多く、指針等に基づき説明し同意を得ている。終末期になった場合は主治医を中心とした家族協力のもと、緩和ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、災害時に対応できるよう備えており、地域のご協力が頂ける様築いています。	夜間想定訓練では手順を話し合い2階の入居者は左右両側の非常階段から避難した。1階と2階の役割に反省点もあり、階ごとの留意点を見直した。隣のデイサービスと合同で同時進行での訓練も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重できるようにプライバシーが守れるよう努めています。	入居者の希望により名字で呼ぶことが多い。声掛けは入居者の傍に行き、その人に合わせた声の大きさを優しく親しみやすい言葉で話しかけている。生まれた場所の話や何気ないときに話が弾むことがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思表示や自己決定ができるように、例えば水分提供の際は、好きな飲み物を選んで頂くよう声がけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースを守り、ご本人様の思いに沿って過ごして頂けるような配慮を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらい着ていただいたり、髪型や髭そりなどの身だしなみに配慮して支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事づくりなど行ってもらつ事困難になってきておりますが、食器やおぼん拭き、テーブル拭きを手伝って頂ける様声がけ支援行っております。また、食事前の挨拶をご利用者様から言って頂き、皆で楽しんで頂ける様工夫しています。	配食業者を利用している。正月料理、新年会、誕生会などその時々にあった食事を楽しみ、季節に合った果物も直接仕入れている。手作りおやつにホットケーキ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できるよう配慮し、本人の体調や嚥下状態も把握しながら食事形態を考え提供し支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めています、必要時には訪問歯科に相談し治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のおむつ使用を出来るだけ行わず、定時的にトイレへの誘導声がけを行い排泄を促すよう努めています。	排泄チェック表で個人ごとにタイミングと僅かな動きで声がけし、トイレ誘導を行っている。失禁、失敗時には「綺麗にしましょう」と声がけし、入浴に誘うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的にとらえ、自然排泄が出来るよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調や気分に合わせて柔軟に変更したり、ご本人様が入浴を希望する時間に合わせられるように行っています。	入浴は週2回～3回で本人の体調に合わせて行っている。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤等で入浴を楽しみながら風呂場で話しが弾む。浴槽に入れられない方も部屋を暖め、体をタオルで包むなどシャワー浴で寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、かつ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき、安心して休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づいた管理を行っています。服薬事故のないようスタッフ間でダブルチェックを実施しています。また、看護師にも内服時間や方法など相談しながら、かつ医師にも相談を行いながら適切な服薬ができるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い継続して行っていくことで、メリハリのある生活が出来るよう支援しています。出来る事に配慮した支援をし、手伝い等役割と感覚、活気のある日常を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ドライブや隣接のデイサービスでの行事に参加して支援行っています。また、ご家族様と共に協力に外出を楽しんで頂けるよう支援しています。	冬場は室内にいることが多い。温かい季節には、長椅子で外気浴をしている。花壇に水をかけたりお茶を飲んだりしている。近くに公園があり日常的な散歩コースになっていて近所の方や子供たちと触れ合う機会が多くある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でのお金の管理を行える方が少なく、施設預かりとしていますが、ご本人様やご家族様の希望に応じて、お小遣いの中から買い物をしたり、外食での支払いを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感を感じる事の出来る飾りつけを行っており、居心地のよく感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	入居者の座る位置などに気を配っている。入居間もない人には家族からの聞き取りにより、フロアでの本人の座る向きを決めている。ソファーやテレビの位置を変えるなどして新鮮味を出す工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手になったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人様の意思にて席が変わられる事も柔軟な対応配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真等持参して頂きご本人様の居室に置き、居心地のよく安心して生活が送れるように配慮行っています。	各部屋はエアコン、加湿器がセットされていて居心地がよく安心して過ごせる工夫がされている。居室の掃除は主に職員がすることが多いが入居者が寝やすい状況を考慮しベッドの位置変更で気分転換を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や明るさへの配慮を行い、安全に配慮した環境作りが出来るよう工夫しています。		